

2013年8月21日(水) 【参加者 30名(大人17名、子供13名)】

講師 岸 由二氏(NPO法人小網代野外活動調整会議理事長)

NPO法人小網代野外活動調整会議のスタッフ、カニパトのみなさま



8月21日は大潮で、夕方の上げ潮が高く岸に寄せる日。普段は森に住むアカテガニがその大潮の夕暮れに合わせて海でお産(放仔)をするために干潟周辺にやってきます。「人は海!カニは陸!」の合言葉のもと、ひざ下程度まで海に入ってその様子を観察してきました。

- ①当日は15時に京急三崎口に集合。
徒歩組とバス組に別れて観察場所のある小網代の森の海辺
(通称:大蔵緑地のアカテガニの広場)を目指して出発しました。



小網代の森の中をぬけて海を目指します



- ②約1時間後、大蔵緑地に到着。
日没までまだ時間があるので干潟周辺を散策しました。



山と海をつなぐ河口付近。源流から海まで自然の生態系が連なるこのような場所には珍しい生き物がたくさんいるとのこと。



- ③散策後、広場で休憩をとりながら手作りの紙芝居『アカテガニがいっぱい』をみました。



アカテガニの生態について。それから、これからアカテガニを観察するにあたっての注意など、わかりやすくお話をいただきました。



- ④いざ海へ!
アカテガニは日没直前にお産(放仔)が始まり、約1時間で終了するとのこと。参加者は皆長靴に履き替え、そっと海に入りカニが海辺に来るのを待ちます。
すると、1匹、また1匹と、アカテガニが姿を現しました。少しずつ海に向かって行き、海水に体がつかった瞬間、体をプルプル震わせてお腹にかかえたたくさんの卵(幼生)を海に放ちました。



静かに海に入り、一列に並んでじっと岸を見つめます。



次々とカニがやってきてお産をしました。お産のたびにあちこちで歓声があがりました。



産まれたての赤ちゃん(ゾエア)も観察しました。

【参加者の声】 ・満月の夜に森からお産のために海に降りてくるなんて神秘的でした。
・とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
・お産の様子がよく見えた。プルプルと震わせることは知らなかったからびっくりした。夏休みの自由研究にする。
・とてもよい企画だった。 ・森と海のつながりを実感することができました。